

3年1組

両方やりたい！ ～生きものとの暮らしとジャム作り～



生きものとも暮らしたいし、ジャムも作りたい！

4月、出会ったばかりの子どもたちに今年度の中核活動はどんなことがしたいのか聞いてみました。すると返ってきた答えは「生きものとの暮らし」と「ジャム作りをしたい」というものでした。それぞれの思いを聞いていくと、「去年は生きものを飼えなかったから、今年こそは何か生きものを飼いたい」や「去年もジャムを作って、まだまだいろんな種類のジャムを作りたいから」といった熱い思いを持っていることがわかりました。そこで、今年度の中核活動を何にするのか、子どもたちと話し合っていました。話し合いを進めていくうちに、子どもたちはどちらかに決めるのではなく、どちらもやりたいと願いをもつようになりました。こうして今年度の中核活動は「生きものとの暮らし」と「ジャム作り」に決まりました。「生きものとの暮らし」ではマイクロブタを迎えることに、「ジャム作り」では、自分たちで育てたものでジャムを作ることになり動き出しました。



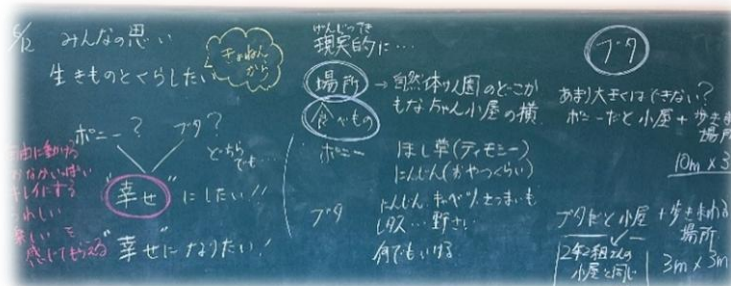
大きなあれ、ミニトマトと枝豆！

ジャム作りの第一弾として、ミニトマトと枝豆を栽培し始めました。ジャムの素材の候補としていくつか挙がりましたが、時期的なことや、新たな挑戦ということでミニトマトと枝豆に決まりました。3年生には学級園がないため、最初はポット栽培から始めました。日当たりも気にしながら、ベランダで栽培をしていますが、子どもたちは毎朝欠かさず水やりをしています。毎朝水やりをしていると小さな変化にもすぐさま気づくものです。「先生、もう枝豆の芽が出てる」「一週間でこんなに育つんだ。はやくもっと大きくなってほしいなあ」といった子どもの声に後押しされるように、どんどんと成長していくミニトマトと枝豆でした。



まだ見ぬ対象に思いを馳せる～小屋づくりを通して～

「今年こそは生きものとの暮らししたい」。そんな願いから始まった話し合いが中心の中核活動は、生きものとの暮らしにどんなことを願うのか、何の生きものとの暮らしなのかといったことをじっくり考える時間でした。その中で、「幸せにしたい」「幸せになりたい」という願いが子どもたちから生まれました。では一体何をもって「幸せ」とするのか、これには様々な考えがあるかと思いますが、1組の子どもたちが導き出したのは、「うれしい、楽しいを感じてもらえること」＝「幸せ」というものでした。もう少し具体的に捉えると、「自由」や「満足感」といったことをブタさんに味わってほしいということです。そこで、その願いを実現すべく、「自由」や「満足感」を味わえる小屋をつくろうと小屋づくりが始まりました。



小屋をつくる場所は自然体験園の東側クルミの木の近くです。草が生い茂り、地面が全く見えません。何をするにしても、この草を刈らない限り次の段階には進めないのです。まずは草刈りから始めました。黙々と草を刈る作業、傍から見ると面白味がないように感じられますが、取り組む子どもたちは、真っ直ぐに『ブタさん』を見つめていました。Aさんは、「ここなら日陰の場所と、日が当たる場所の両方があるから、(ブタさんに)いい方を選んでもらえるね」といながら嬉しそうに草を刈っていました。



草を刈り終わると次は小屋の柱建てです。地面に若干の傾きがあるので、穴の深さや柱の高さを調整しながら柱を立てていく必要があります。柱を立てるために30cm程の穴を掘るのですが、地面が硬く、なかなか思うように進みません。すると穴を掘っていた子どもたちが「水をかけて土を柔らかくすれば掘りやすいんじゃない」と言い出しました。それを聞いた別の作業を担当していたBさんとCさんは、「じゃあ俺たちが水を汲んでくるよ」とバケツをもって池の方へ駆け出し、水を汲んできてくれました。



自分たちでより良くしようと知恵を出し合う姿であったり、Bさん、Cさんのように誰に言われずとも、自ら動きだしたりする姿は、『ブタさん』というまだ見ぬ対象に思いを馳せる中で、仲間と協力する良さを自然と感じ取っているように見受けられました。

また、子どもたちの小屋づくり日記からも『ブタさん』への思いや協力することの良さをと感じ取った様子が書かれていたので紹介します。

今日、かんじたことはきょうりよくです。こんなにあついなかやくわりぶんたんをしてきょうりよくしていて、明樂ゆう元(※3年1組の学級目標のこと)につながっていると思いました。またこれをいかしていきたいです。 Dさん

生きもののいのちはたいせつにしなきゃいけない。はじめて小屋づくりをした今日わたしはおもいました。いまこのようにめっちゃつかれたけど、気づかないうちにむちゅうになっていて、これだけつかれてでもいのちをまもらなきゃいけない。どうぶつでも水のなかのいきものでも人げんでも、みんないちばんたいせつなものはいのち、わたしたちはそんなミニブタの小屋づくりをした。 Eさん

まだまだ歩み出したばかりの小屋作りですが、ブタさんとの暮らしを想像し、1つ1つの工程を味わいながら活動を進めていく子どもたちの表情は、満足感に満ち溢れています。そしてこの小屋づくりを通して、まだ出合っていない『ブタさん』という対象を、強く感じている子どもたちです。「暑いけど毎日小屋づくりをしたい!」そんな熱意溢れる声が毎日聞こえています。何かに思いを馳せることは、尊く、そして美しいものだ子どもたちの姿から感じさせてもらっています。小屋が完成すると、いよいよブタさんをお迎えします。待ちに待ったブタさんをお迎えできることを心待ちにしている子どもたちです。

